



## 2021年3月期 決算説明資料

2021.5.12

TIS株式会社

© 2021 TIS Inc.

(2021年5月13日開催 アナリスト向け決算説明会 プレゼンテーション要旨)

・おはようございます。TISの河村でございます。本日は当社決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。今回より、企画本部長として業績等の説明を担当してまいりますので、よろしくお願いいたします。

・それでは、まず私から、

- ・2021年3月期業績概要
- ・2022年3月期業績見通し

および

- ・株主還元

の3点についてご説明させていただきます。なお、本日はこの後に、ご案内のとおり、社長の岡本による新中期経営計画の説明が控えておりますので、簡潔なご説明とさせていただきます。

### 2021年3月期 業績概要

- ・11期連続増収、10期連続営業増益、計画達成
- ・受注高、受注残高ともに前期比増加で着地

### 2022年3月期 業績見通し

- ・DX需要等を追い風に増収増益を計画、成長投資も継続

### 株主還元

- ・総還元性向を引き上げ、配当は10期連続の増配を計画

- ・はじめに、2ページをご覧ください。
- ・今回決算のハイライトとして4点挙げております。
- ・2021年3月期業績概要についてはコロナ禍でも増収・営業増益で着地し計画達成できたこと及び受注高・受注残高も前期比増加に転じたこと、また、2022年3月期業績見通しについては増収増益計画でさらなる成長を見込むこと、最後に株主還元については総還元性向の引き上げと10期連続の増配を計画していること  
以上がポイントだと考えております。

**2021年3月期 業績概要****2022年3月期 業績見通し****株主還元****参考資料**

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・各四半期会計期間（3カ月）の数値は累計期間の差引により算出しています。

・各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

・特定顧客について金融業界に特化した専門的な業務ノウハウをベースとしたビジネスから、当該業種ノウハウの汎用化・テンプレート化した知識集約型のビジネスへの展開により、当該顧客との取引は、2020年3月期は金融IT、2021年3月期以降はサービスITに計上されています。⇒影響ページ：7・8・11・14・15・21・27・28

(説明省略)

2021年3月期 業績概要

2022年3月期 業績見通し

株主還元

参考資料

(説明省略)

## 2021年3月期 業績ハイライト（前期比）



- ・想定通り下期からの回復基調に期中に子会社化した企業の業績も寄与し、増収、営業増益にて着地。
- ・親会社株主に帰属する当期純利益は持分法による投資損失等の影響で前期比減少。

(百万円)	2020年3月期 通期	2021年3月期 通期	前期比	
売上高	443,717	<b>448,383</b>	+4,666	(+1.1%)
営業利益	44,839	<b>45,748</b>	+908	(+2.0%)
営業利益率	10.1%	<b>10.2%</b>	+0.1P	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	29,411	<b>27,692</b>	▲1,718	(▲5.8%)
当期純利益率	6.6%	<b>6.2%</b>	▲0.4P	-
1株当たり当期純利益（円）	116.78	<b>110.51</b>	▲6.27	(▲5.4%)
ROE	12.5%	<b>10.8%</b>	▲1.7P	-

・営業外収益：2,011百万円（前期比 +29百万円）  
→受取配当金 847百万円 等

・営業外費用：8,502百万円（前期比 +7,751百万円）  
→持分法による投資損失 6,033百万円、  
貸倒引当金繰入額 2,053百万円 等

・特別利益：9,709百万円（前期比 ▲986百万円）  
→投資有価証券売却益 9,497百万円 等

・特別損失：4,150百万円（前期比 ▲7,978百万円）  
→減損損失 2,467百万円、投資有価証券評価損 1,111百万円 等

© 2021 TIS Inc.

5

- ・それでは、5ページをご覧ください。2021年3月期業績の概要です。
- ・2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大変な1年となりましたが、重要な社会インフラを支える使命を果たすべく、事業継続と事業強化に注力した成果として、11期連続の増収、10期連続の営業増益で着地し、期中に引き上げた修正計画に対しても達成することができました。
- ・期初想定通り、下期から回復基調にあったことに加え、期中に子会社化した企業の業績も寄与し、通期の売上高は前期比1.1%増の4,483億円となりました。営業利益についても処遇改善やブランド強化をはじめとした将来に向けた戦略的な投資を積極的に行いながらも、前期比2.0%増の457億円となり、営業利益率も0.1ポイント向上の10.2%となりました。
- ・一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、海外の持分法適用会社に係る投資損失約60億円と貸付金に対する貸倒引当金約20億円を計上した影響が大きく、前期比5.8%減の276億円となりました。
- ・ROEについては当期純利益の減少に伴い10.8%となりましたが、引き続き資本効率性の向上に努める所存です。

## 2021年3月期 業績ハイライト（計画比）

- ・売上高及び営業利益は、収益性向上や新規子会社の連結効果が想定を上回り計画達成。
- ・親会社株主に帰属する当期純利益は持分法による投資損失等の影響で計画未達。

(百万円)	2021年3月期 計画*	2021年3月期 実績	計画比	
売上高	445,000	<b>448,383</b>	+3,383	(+0.8%)
営業利益	44,500	<b>45,748</b>	+1,248	(+2.8%)
営業利益率	10.0%	<b>10.2%</b>	+0.2P	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	29,500	<b>27,692</b>	▲1,808	(▲6.1%)
当期純利益率	6.6%	<b>6.2%</b>	▲0.4P	—
1株当たり当期純利益（円）	117.77	<b>110.51</b>	▲7.26	(▲6.2%)
ROE	11.8%	<b>10.8%</b>	▲1.0P	—

\*当社公表済の最新計画値、ROEは試算値。

- ・続いて6ページ。計画比についてです。収益性向上の取り組みや新規子会社の業績が想定を上回ったことで、売上高・営業利益は計画達成となりましたが、親会社株主に帰属する当期純利益については計画未達となりました。

## 2021年3月期 主要セグメント別損益状況（前期比）



(百万円)		2020年3月期 通期	2021年3月期 通期	前期比	
サービスIT	売上高	125,518	<b>136,946</b>	+11,428	(+9.1%)
	営業利益	8,198	<b>8,695</b>	+496	(+6.1%)
	営業利益率	6.5%	<b>6.3%</b>	▲0.2P	-
BPO	売上高	33,699	<b>35,453</b>	+1,753	(+5.2%)
	営業利益	2,622	<b>3,105</b>	+482	(+18.4%)
	営業利益率	7.8%	<b>8.8%</b>	+1.0P	-
金融IT	売上高	114,472	<b>110,660</b>	▲3,812	(▲3.3%)
	営業利益	14,936	<b>15,320</b>	+383	(+2.6%)
	営業利益率	13.0%	<b>13.8%</b>	+0.8P	-
産業IT	売上高	202,701	<b>194,414</b>	▲8,287	(▲4.1%)
	営業利益	19,159	<b>18,710</b>	▲448	(▲2.3%)
	営業利益率	9.5%	<b>9.6%</b>	+0.1P	-

サービスIT： 決済関連やクラウド関連の事業拡大が牽引、期中に子会社化した企業の業績も寄与し、増収増益。  
 BPO： コールセンター業務をはじめとするアウトソーシング需要の増加基調や給付金対応等を受けて、増収増益。  
 金融IT： 根幹先顧客は堅調なもの、企業活動の停滞影響等により減収の中、案件採算性向上等により増益。  
 産業IT： 根幹先好調も、地方・中堅中小企業を中心にIT投資抑制が強く、減収減益。

© 2021 TIS Inc.

7

- ・続いて、主要なセグメント別の状況です。
- ・サービスITは、決済関連の事業拡大をはじめとして売上高が大きく伸長し、増益となっております。
- ・BPOは、コールセンター業務の需要増や給付金対応等を受けて堅調に推移し、増収増益という結果でした。
- ・金融ITは、企業活動の停滞による案件の遅れ等を受けて、売上高は前期比マイナスとはなりましたが、営業利益は案件採算性の向上の取り組み等により前期比増益で着地しました。
- ・産業ITは、中堅中小企業を中心とした、コロナ禍によるIT投資抑制の動きを受けて、減収減益という厳しい結果となりました。その中でも収益性重視の取り組みが奏功して、営業利益率は0.1ポイント増加の9.6%となりました。

## 2021年3月期 主要セグメント別損益状況（計画比）



(百万円)		2021年3月期 計画	2021年3月期 実績	計画比	
サービスIT	売上高	134,500	<b>136,946</b>	+2,446	(+1.8%)
	営業利益	8,800	<b>8,695</b>	▲105	(▲1.2%)
	営業利益率	6.5%	<b>6.3%</b>	▲0.2P	-
BPO	売上高	33,500	<b>35,453</b>	+1,953	(+5.8%)
	営業利益	2,600	<b>3,105</b>	+505	(+19.4%)
	営業利益率	7.8%	<b>8.8%</b>	+1.0P	-
金融IT	売上高	115,000	<b>110,660</b>	▲4,340	(▲3.8%)
	営業利益	15,300	<b>15,320</b>	+20	(+0.1%)
	営業利益率	13.3%	<b>13.8%</b>	+0.5P	-
産業IT	売上高	196,000	<b>194,414</b>	▲1,586	(▲0.8%)
	営業利益	18,100	<b>18,710</b>	+610	(+3.4%)
	営業利益率	9.2%	<b>9.6%</b>	+0.4P	-

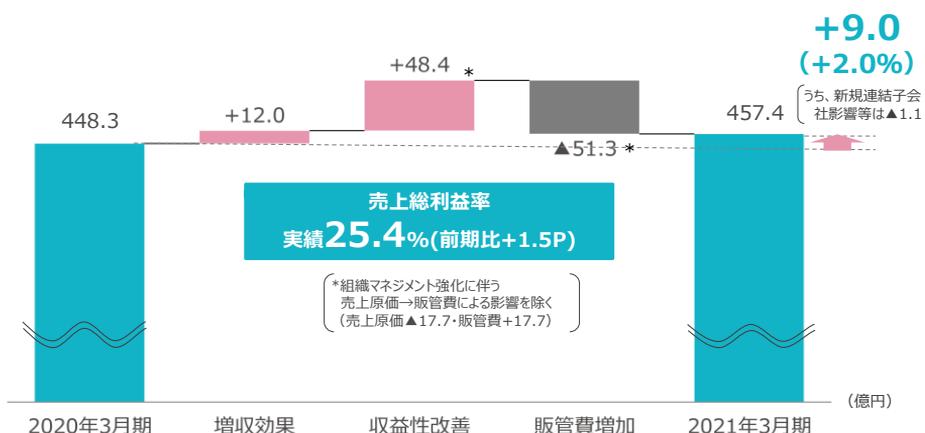
サービスIT：期中に子会社化した企業の業績寄与等で売上高は計画達成も、不採算案件の影響等で営業利益は計画未達。  
 BPO：顧客のBCPやテレワーク・分散化の加速によりアウトソーシング需要が好調に推移したことから、計画達成。  
 金融IT：銀行をはじめとしてIT投資抑制が厳しかったことから、売上高は計画未達。営業利益は計画並みで着地。  
 産業IT：IT投資抑制の動きが想定よりも強く売上高は計画未達。収益性向上の取り組みが奏功し、営業利益は計画達成。

© 2021 TIS Inc.

8

- ・続いて8ページは、計画比です。
- ・第2四半期決算時に新規子会社分を加味し、サービスITと産業ITを上方修正いたしました。
- ・サービスITは、売上高の計画達成にMFECが大きく貢献いたしました。収益性についても同様に好調でしたが、不採算案件の影響もあり、計画未達となりました。
- ・産業ITにおいても、TIS千代田システムズが貢献いたしました。中堅中小企業を中心としたIT投資抑制の動きは厳しく、売上高は計画を下回る結果となりました。

## 2021年3月期 営業利益要因別増減分析（前期比）



### 構造転換推進のための先行投資コスト：前期比+1.2

(売上原価：+4.8 販管費▲3.6)

- ✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
  - ✓「構造転換を促進するための人財投資」
  - ✓「先端技術獲得のための研究開発投資」
- に関するコスト

### 早期認知獲得のためのブランド関連コスト：前期比+7.0

### <販管費増減>

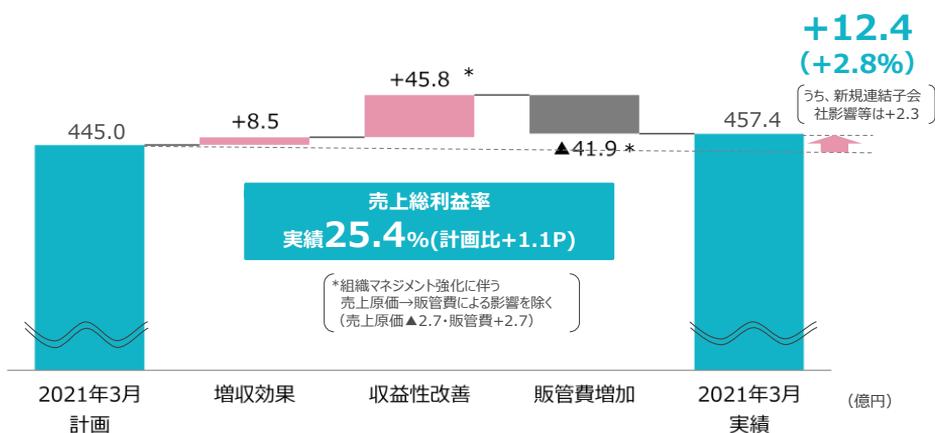
処遇改善	+22.5
新規連結子会社影響等	+24.7
ブランド関連	+7.0
組織マネジメント強化	+17.7
経費削減・本社機能高度化	▲18.8
先行投資・その他	+15.9
計	+69.0

© 2021 TIS Inc.

9

- ・9ページは、営業利益の前期比の要因別増減分析です。
- ・はじめに、当期の不採算案件については通期19.4億円で、前期に比べて約5億円増加し、残念ながら想定の10億円以内とはなりません。この点については大変真摯に受け止めており、あらためて不採算案件の抑制に向けた取り組みを徹底していきたいと考えています。
- ・一方で、案件採算性や生産性向上の取り組みを着実に推進してきたことから、売上総利益率は前期比1.5ポイント上昇し、25.4%まで向上させることができました。
- ・結果、処遇改善をはじめとした戦略的投資による販管費の増加を吸収し、営業利益は前期比9億円増加での着地となりました。

## 2021年3月期 営業利益要因別増減分析（計画比）



### 構造転換推進のための先行投資コスト：計画比▲9.8

(売上原価：▲0.3 販管費▲9.5)

- ✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
  - ✓「構造転換を促進するための人財投資」
  - ✓「先端技術獲得のための研究開発投資」
- に関するコスト

### 早期認知獲得のためのブランド関連コスト：計画比+2.0

#### <販管費増減>

処遇改善	+22.5
新規連結子会社影響等	+8.8
ブランド関連	+2.0
組織マネジメント強化	+2.7
経費削減・本社機能高度化	▲8.8
先行投資・その他	+17.4
計	+44.6

© 2021 TIS Inc.

10

- ・計画比も同様で、今ご説明したとおりの内容で、売上高総利益率の改善が販管費の増加を吸収したことで、計画達成ができました。

(参考) 2021年3月期第4四半期 (1-3月)  
業績ハイライト・主要セグメント別損益



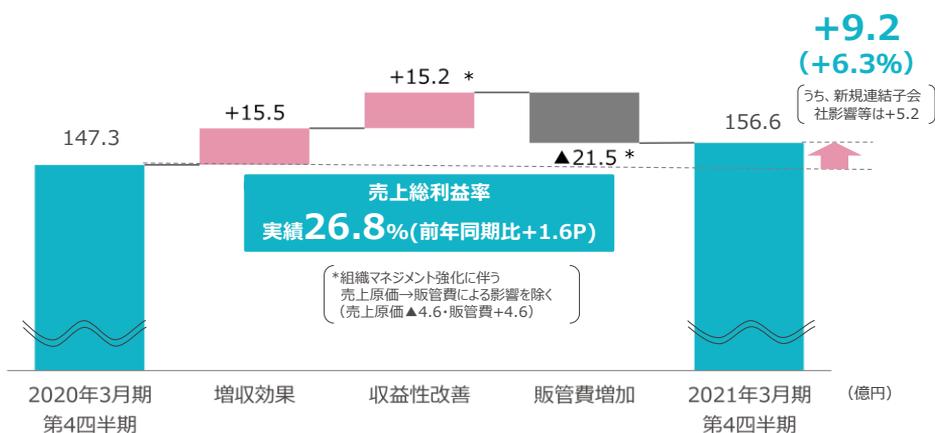
(百万円)	2020年3月期 第4四半期	2021年3月期 第4四半期	前年同期比	
売上高	124,707	<b>130,350</b>	+5,643	(+4.5%)
営業利益	14,736	<b>15,660</b>	+923	(+6.3%)
営業利益率	11.8%	<b>12.0%</b>	+0.2P	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,974	<b>9,570</b>	+595	(+6.6%)
四半期純利益率	7.2%	<b>7.3%</b>	+0.1P	-
<b>主要セグメント別</b>				
サービスIT	売上高	35,617	<b>43,251</b>	+7,634 (+21.4%)
	営業利益	3,086	<b>3,572</b>	+485 (+15.7%)
	営業利益率	8.7%	<b>8.3%</b>	▲0.4P -
BPO	売上高	9,080	<b>9,427</b>	+346 (+3.8%)
	営業利益	855	<b>962</b>	+107 (+12.6%)
	営業利益率	9.4%	<b>10.2%</b>	+0.8P -
金融IT	売上高	32,509	<b>30,062</b>	▲2,446 (▲7.5%)
	営業利益	4,426	<b>4,639</b>	+213 (+4.8%)
	営業利益率	13.6%	<b>15.4%</b>	+1.8P -
産業IT	売上高	58,194	<b>56,508</b>	▲1,686 (▲2.9%)
	営業利益	6,558	<b>6,280</b>	▲278 (▲4.2%)
	営業利益率	11.3%	<b>11.1%</b>	▲0.2P -

© 2021 TIS Inc.

■ 11

・11ページ・12ページは、第4四半期の3か月間の業績を示したものです。第3四半期に続き、増収増益となっております。

(参考) 2021年3月期第4四半期 (1-3月)  
営業利益要因別増減分析 (前年同期比)



**構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比+2.3**

(売上原価：+2.7 販管費▲0.4)

- ✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
  - ✓「構造転換を促進するための人財投資」
  - ✓「先端技術獲得のための研究開発投資」
- } に関するコスト

**早期認知獲得のためのブランド関連コスト：前年同期比▲1.7**

<販管費増減>

処遇改善	+8.1
新規連結子会社影響等	+12.6
ブランド関連	▲1.7
組織マネジメント強化	+4.6
経費削減・本社機能高度化	▲4.8
先行投資・その他	+7.3
計	+26.1

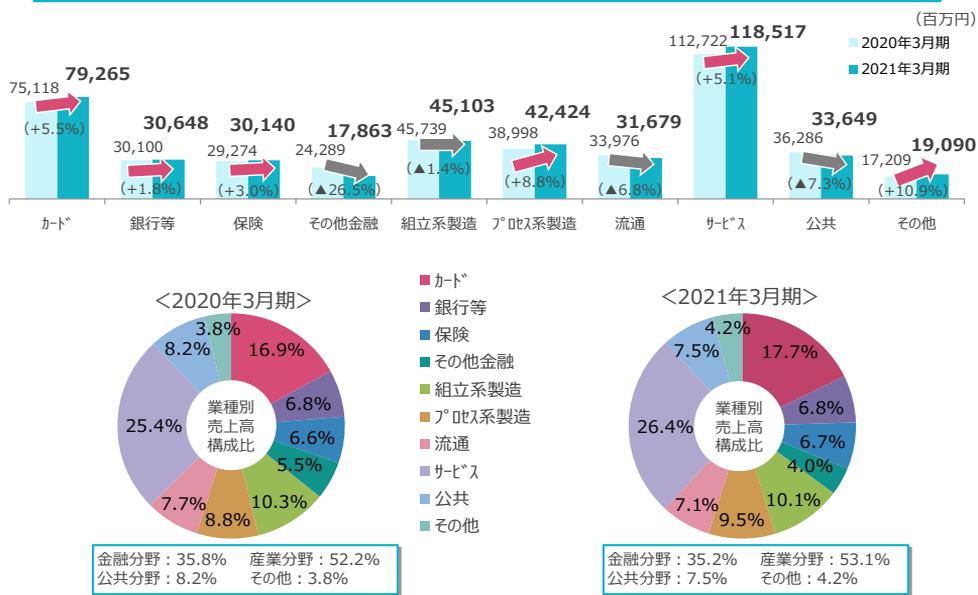
© 2021 TIS Inc.

12

(説明省略)

## 2021年3月期 顧客業種別売上高

・根幹先顧客を中心にカード・プロセス系製造が好調。新規子会社が銀行・サービスを押し上げ。



© 2021 TIS Inc.

13

- ・13ページは顧客業種別売上高の状況です。
- ・「カード」および「プロセス系製造」は当社グループの根幹先顧客を筆頭に、通期にわたって好調でした。また、「銀行」、「サービス」の第4四半期におけるプラス転換にはM&AしたMFECの効果が大きく表れております。

## 2021年3月期 受注状況（全体）

・下期から事業活動が正常化したことを受け、受注高、受注残高ともに前期比増加で着地。  
（期中に子会社化した企業の増加分を除いても前期比増加）

（百万円）	2020年3月期 通期	2021年3月期 通期	前期比	
当期受注高	439,748	<b>452,284</b>	+12,535	(+2.9%)
サービスIT	111,929	<b>128,507</b>	+16,578	(+14.8%)
BPO	30,688	<b>32,702</b>	+2,014	(+6.6%)
金融IT	117,015	<b>113,921</b>	▲3,094	(▲2.6%)
産業IT	180,116	<b>177,153</b>	▲2,962	(▲1.6%)
期末受注残高	133,121	<b>147,214</b>	+14,093	(+10.6%)
サービスIT	34,434	<b>44,421</b>	+9,987	(+29.0%)
金融IT	44,456	<b>48,114</b>	+3,658	(+8.2%)
産業IT	54,230	<b>54,678</b>	+447	(+0.8%)

- ・14ページ、運用等も含む全体の受注状況をご説明いたします。
- ・受注については上期は非常に厳しい状況でしたが、下期から事業活動が正常化したことを受け、通期の受注高は前期比2.9%増の4,522億円、受注残高は10.6%増の1,472億円で着地することができました。
- ・なお、期中に子会社化した企業の増加分を除いても、受注高、受注残高ともに前期比増加で着地できており、着実な積み上げができたと考えています。

## 2021年3月期 受注状況（ソフトウェア開発）

- ・受注高は通期では前期比減少だが、四半期ごとに状況が改善し、第4四半期にはプラス転換。
- ・受注残高も第4四半期の受注高増加を受けて、前期比増加で着地。

(百万円)	2020年3月期 通期	2021年3月期 通期	前期比	
当期受注高	246,330	<b>237,323</b>	▲9,007	(▲3.7%)
サービスIT	53,741	<b>55,037</b>	+1,295	(+2.4%)
金融IT	73,249	<b>68,490</b>	▲4,759	(▲6.5%)
産業IT	119,339	<b>113,795</b>	▲5,543	(▲4.6%)
期末受注残高	79,277	<b>83,797</b>	+4,520	(+5.7%)
サービスIT	15,309	<b>20,367</b>	+5,058	(+33.0%)
金融IT	28,400	<b>28,541</b>	+141	(+0.5%)
産業IT	35,566	<b>34,887</b>	▲679	(▲1.9%)

(参考) 直近四半期

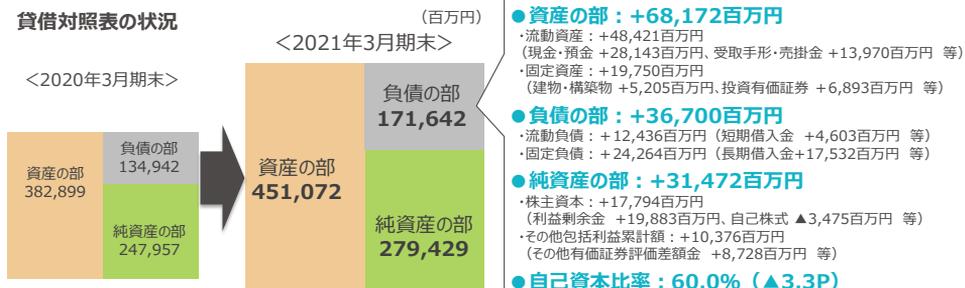
(百万円)	2020年3月期 第4四半期	2021年3月期 第4四半期	前年同期比	
当期受注高	71,321	<b>75,303</b>	+3,981	(+5.6%)
サービスIT	12,321	<b>13,974</b>	+1,652	(+13.4%)
金融IT	25,452	<b>24,784</b>	▲668	(▲2.6%)
産業IT	33,547	<b>36,544</b>	+2,996	(+8.9%)

- ・15ページは、ソフトウェア開発の受注状況です。
- ・通期では、前期比3.7%減という結果でしたが、第3四半期まで減少傾向にあった開発受注高は、第4四半期に前年同期比プラスに転じました。事業活動が正常化し、実際に数字に表れてきたことで今後に向けた明るさが強まってきていることがおわかりいただけるかと思います。
- ・開発受注残高についても、過去最高の837億円で新年度を迎えることができました。

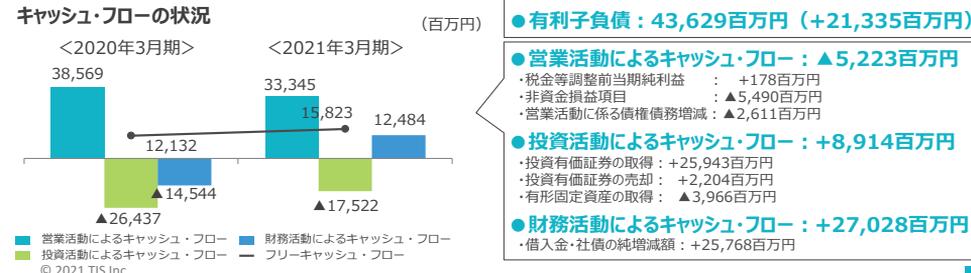
## 2021年3月期 貸借対照表、キャッシュフローの状況

- ・不測の事態に備えた借入金増加により自己資本比率はやや低下したが、高水準を維持。
- ・積極的な成長投資を継続しながらも、フリーキャッシュ・フローは前期比増加。

### 貸借対照表の状況



### キャッシュ・フローの状況



- ・16ページは貸借対照表とキャッシュ・フローの状況です。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う不測の事態に備えて200億円の借入を行ったこと等から、自己資本比率は60%とやや低下したものの、引き続き財務健全性を堅持しています。
- ・キャッシュ・フローについても積極的な成長投資を行いながらも、フリーキャッシュ・フローは高水準を保ち、前期比増となっております。
- ・以上が、2021年3月期実績に関する説明となります。

2021年3月期 業績概要

2022年3月期 業績見通し

株主還元

参考資料

(説明省略)

- ・ニューノーマル（新常态）によるデジタル変革需要は強く、IT投資は回復傾向を見込む。
- ・長期的なIT投資拡大傾向や収束後の加速期待の見方も変わらず。

### サービスIT

- ✓ DX化、キャッシュレス化の流れは進展するも移動制限によるクロスボーダー決済・インバウンド激減からの回復については不透明。決済プレイヤーも多様化し、競争環境は激化。
- ✓ クラウド型での提供ニーズは拡大。デジタル社会の進展に伴い、セキュリティ市場の成長も加速し、ともに需要拡大。
- ✓ 自治体行政手続きのデジタル化の流れは加速、スマートシティもPoCから次の局面へ。
- ✓ DXやクラウドが追い風となり、ERPの需要は復調の兆しが強まる。

<これまで>

<これから>



### BPO

- ✓ 企業のBCPやテレワーク、分散化の加速によるアウトソース重要な拡大傾向は持続。
- ✓ 長期化する人材不足、働き方改革推進によるデジタルイノベーションニーズは引き続き堅調。



### 金融IT

- ✓ 決済等の重要な社会インフラを支える事業は底堅い需要。
- ✓ 金融事業者の構造転換に伴う競争力強化への投資は拡大。
- ✓ オンサイトは顧客常駐業務の見直しによる需給バランスや企業の内製化の動きにも注視が必要。



### 産業IT

- ✓ 幅広い産業分野で競争力強化のための企業のDXへの取組は加速。
- ✓ 一方で製造業や中堅中小企業等は景気動向の影響が大きく、経済環境の回復動向に注視が必要。
- ✓ 電力・ガス分野では小売自由化、発送電分離等の改革対応は収束、今後はIT投資ニーズがビジネス改革目的にシフト。
- ✓ 公共・医療等の社会構造変化によってさらなる需要創造が期待。



- ・続きまして、2022年3月期通期業績見通しについてです。
- ・まず18ページでは、見通しの前提となる外部環境の認識をご説明します。デジタル変革需要は力強く、IT投資は拡大傾向にあると見ています。そのため、全体的に好転し、良好な事業環境になると期待しています。

中期経営計画（2021-2023）  
基本方針

ステークホルダーレイヤー  
社会・社員との価値交換や持続的成長の善循環を生み出す

社会・社員との共創価値の善循環

ビジネスレイヤー  
SI力を強みにグローバルDXパートナーへ進化



リソースレイヤー  
構造転換を成し遂げる人材構成へシフト

人材の先鋭化・多様化

2022年3月期グループ経営方針

サステナビリティ経営による社会提供価値と企業価値向上への取組推進

マテリアリティに基づき事業を通じた社会課題解決を促進すると共にESG高度化施策を推進  
持続的な経営基盤としてG20施策（本社機能の高度化/効率化）の推進

生産性革新とDX提供価値向上による高付加価値化への取組強化

SI成長のための生産性革新を推進及びDX価値向上への人材強化等の施策推進

財務健全性を堅持しつつ、DX価値提供力強化への成長投資

社会課題解決に資する事業を中心に重点投資を競争優位の源泉を確立

ASEANトップクラスのIT企業連合体を目指した成長戦略推進とガバナンス確立

海外事業戦略に基づく出資先との関係強化・共同事業展開、更なる市場深耕へ  
グローバルパートナーシップ網の拡充

社員の働きがいの持続的向上とDX化を牽引する多様性に富む人材の育成

成長の原動力である多様な人材との価値交換性を高める仕組みづくりとデジタル化を牽引できる  
人材への投資

(説明省略)

## 2022年3月期 業績予想ハイライト

- ・顧客のデジタル変革需要の取り込み等による事業拡大を背景として、増収増益の計画。
- ・前期中に子会社化した企業の業績が通期にわたって寄与。

(百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 計画*1	前期比	
売上高	448,383	<b>470,000</b>	+21,617	(+4.8%)
営業利益	45,748	<b>48,500</b>	+2,752	(+6.0%)
営業利益率	10.2%	<b>10.3%</b>	+0.1P	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	27,692	<b>32,200</b>	+4,508	(+16.3%)
当期純利益率	6.2%	<b>6.9%</b>	+0.7P	—
1株当たり当期純利益 (円)	110.51	<b>128.78</b>	+18.27	(+16.5%)
ROE *2	10.8%	<b>11.5%</b>	+0.7P	—

\*1 「収益認識に関する会計基準」の適用による減収影響あり

\*2 2022年3月期のROEは、試算値。

- ・20ページをご覧ください。2022年3月期業績予想ハイライトです。
- ・顧客のデジタル変革需要の取り込み等の事業拡大により、売上高は前期比4.8%増の4,700億円、営業利益は前期比6.0%増の485億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比16.3%増の322億円と、増収増益の計画です。
- ・事業拡大に加えて、前期に子会社化した企業の業績が通期にわたって寄与することも業績を押し上げる要因となっております。

## 2022年3月期 主要セグメント別損益状況（予想）

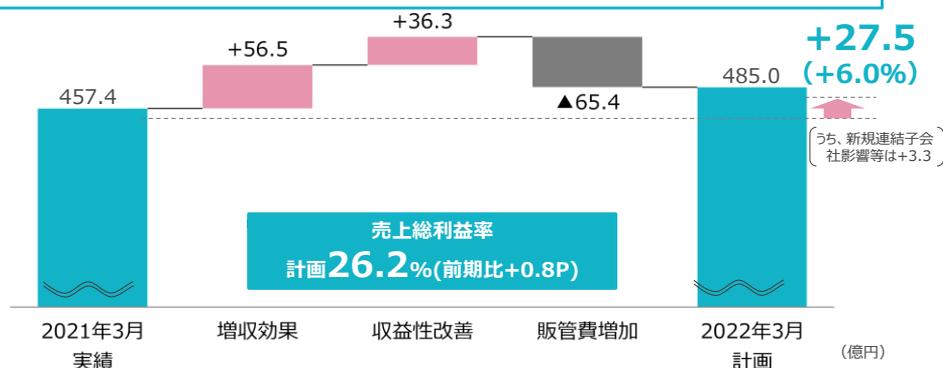
(百万円)		2021年3月期 実績	2022年3月期 計画	前期比	
サービスIT	売上高	136,946	<b>155,500</b>	+18,554	(+13.5%)
	営業利益	8,695	<b>10,800</b>	+2,105	(+24.2%)
	営業利益率	6.3%	<b>6.9%</b>	+0.6P	-
BPO	売上高	35,453	<b>36,000</b>	+547	(+1.5%)
	営業利益	3,105	<b>3,300</b>	+195	(+6.3%)
	営業利益率	8.8%	<b>9.2%</b>	+0.4P	-
金融IT	売上高	110,660	<b>117,000</b>	+6,340	(+5.7%)
	営業利益	15,320	<b>16,000</b>	+680	(+4.4%)
	営業利益率	13.8%	<b>13.7%</b>	▲0.1P	-
産業IT	売上高	194,414	<b>191,000</b>	▲3,414	(▲1.8%)
	営業利益	18,710	<b>19,200</b>	+490	(+2.6%)
	営業利益率	9.6%	<b>10.1%</b>	+0.5P	-

サービスIT： 決済関連ビジネスのIT投資需要の取り込みのほか、前期中に連結化した効果の通期寄与により、増収増益の計画。  
 BPO： アウトソーシング需要の堅調な推移と収益性改善の継続により、増収増益の計画。  
 金融IT： 根幹先顧客を中心としたIT投資の増加を受けて、増収増益の計画。  
 産業IT： 減収計画は「収益認識に関する会計基準」の適用による影響。実勢ベースは堅調で増収増益を見込む。

- ・続いて主要なセグメント別の予想です。
- ・大きく増収増益を見込むサービスITは、主に決済関連ビジネスやMFECの連結効果を見込んだ計画となります。
- ・BPOは、引き続きアウトソーシング需要が拡大し、増収増益の計画です。
- ・金融ITは、引き続きカード根幹先向けのビジネスが牽引することに加え、銀行もIT投資需要の戻りが期待され、増収増益の計画です。
- ・産業ITは、「収益認識基準に関する会計基準」の適用による純額処理の影響が一部あり、売上高の減少を見込んでいます。前期比減収の計画とはなっておりますが、実勢ベースでは堅調で増収増益を見込んでいますので、ご安心下さい。

## 2022年3月期 営業利益要因別増減分析（予想）

・高付加価値ビジネス推進や生産性向上等がオフィス改革コストを含めた積極的な成長投資に伴うコスト増を吸収し、営業増益を見込む。



構造転換推進のための先行投資コスト：前期比+25.0

(売上原価：+10.0 販管費+15.0)

- ✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
  - ✓「構造転換を促進するための人財投資」
  - ✓「先端技術獲得のための研究開発投資」
- に関するコスト

働き方改革推進のためのオフィス改革コスト：前期比+35.0

(売上原価：+10.0 販管費+25.0)

<販管費増減>

新規連結子会社影響等	+20.1
オフィス改革	+25.0
ブランド関連	+0.0
経費削減・本社機能高度化	▲5.0
先行投資・その他	+25.3
計	+65.4

- ・22ページは、営業利益の要因別増減分析です。
- ・主要なコスト増加要因としましては、構造転換を推進していくための先行投資の増加25億円、そして働き方改革推進のためのオフィス改革コスト35億円（一時費用5億円を含む）の増加を見込んでおり、これら増加コストを高付加価値ビジネスの推進や更なる生産性向上等による利益改善で吸収し、営業利益の増益を実現してまいります。
- ・以上が、通期業績見通しに関するご説明となります。

2021年3月期 業績概要

2022年3月期 業績見通し

**株主還元**

参考資料

(説明省略)

総還元性向  
**45%**  
(40%から引上げ)

1株当たり配当  
**継続的な充実化**

自己株式保有  
**5%程度を上限**

成長投資の推進・財務健全性の確保・株主還元の強化のバランスのもと、資本構成の適正化を推進し、資本効率性の向上を目指す。



### 成長投資の推進

- 人材投資や先行投資、M&A等、成長投資を積極化。投資規律 ROIC8%を遵守し3年間で最大1,000億円の投資実行を想定。DX価値提供の向上や新技術の獲得推進により、戦略ドメイン比率60%・営業利益率11.6%を目指す。

### 財務健全性の確保

- 格付「A格」の維持を念頭に、月商2か月程度の現預金保有。

### 株主還元の強化

- 総還元性向の目安を40%から45%に引き上げた上で、1株当たり配当の継続的な充実化を目指す。
- 保有する自己株式は原則として発行済株式総数の5%程度を上限とし、超過分は消却。

- ・最後に、株主還元についてご説明します。
- ・この後説明する新中期経営計画に先んじて、株主還元の基本方針を24ページに掲載しています。
- ・総還元性向の目安を40%から45%に引き上げ、1株当たり配当金については継続的な充実化を図るとともに、自己株式の取得を合わせて実施いたします。

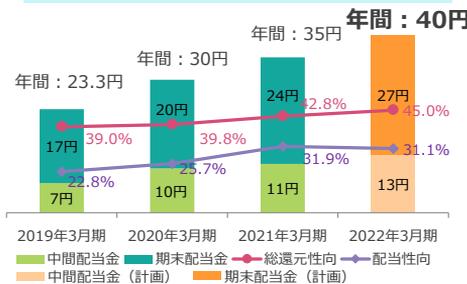
## 株主還元状況

- ・2021年3月期は期初計画通りの年間配当（1株当たり35円）を実施予定。
- ・2022年3月期は総還元性向45%に引き上げ。1株当たり配当金は10期連続の増配を計画。

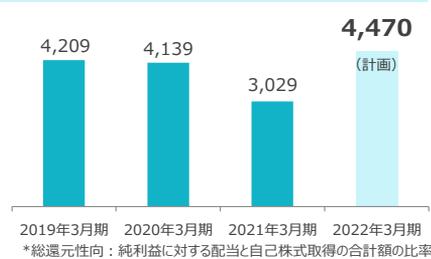
(百万円)	2021年3月期	2022年3月期
1株当たり年間配当金	35円 (前期比+5円)	<b>40円</b> (前期比+5円)
自己株式取得総額	30.2億円	<b>44.7億円</b>
総還元性向	42.8%	<b>45.0%</b>
配当性向	31.9%	<b>31.1%</b>

\*2021年5月12日発表の自己株式の取得内容による上限金額

1株当たり配当金等の推移



自己株式取得総額の推移 (百万円)



\*総還元性向：純利益に対する配当と自己株式取得の合計額の比率

- ・2021年3月期の年間配当については、期初計画のとおり1株当たり35円とする予定です。
- ・2022年3月期については、先ほど申し上げた通り、総還元性向の目安を45%に引き上げます。
- ・1株当たりの年間配当金は5円増の40円とし、10期連続の増配を計画しています。また、自己株式の取得については44.7億円の計画です。
- ・業績拡大とともに、それに応じた株主還元の充実もしっかりと実現していきたいと考えております。
- ・以上で、私からの説明を終了させていただきます。

2021年3月期 業績概要

2022年3月期 業績見通し

株主還元

参考資料

(説明省略)

## 2022年3月期上期

## 業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）



(百万円)		2021年3月期 上期	2022年3月期 上期	前年同期比	
売上高		211,308	225,000	+13,692	(+6.5%)
営業利益		18,211	20,500	+2,289	(+12.6%)
営業利益率		8.6%	9.1%	+0.5P	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益		10,277	13,700	+3,423	(+33.3%)
四半期純利益率		4.9%	6.1%	+1.2P	-
<b>主要セグメント別</b>					
サービスIT	売上高	62,869	74,000	+11,131	(+17.7%)
	営業利益	2,572	4,300	+1,728	(+67.2%)
	営業利益率	4.1%	5.8%	+1.7P	-
BPO	売上高	17,066	17,500	+434	(+2.5%)
	営業利益	1,309	1,400	+91	(+7.0%)
	営業利益率	7.7%	8.0%	+0.3P	-
金融IT	売上高	53,590	57,000	+3,410	(+6.4%)
	営業利益	6,675	7,200	+525	(+7.9%)
	営業利益率	12.5%	12.6%	+0.1P	-
産業IT	売上高	91,473	90,000	▲1,473	(▲1.6%)
	営業利益	7,799	7,900	+101	(+1.3%)
	営業利益率	8.5%	8.8%	+0.3P	-

© 2021 TIS Inc.

\*下期計画は通期計画から上期計画を控除したものです。

■ 27

(説明省略)

## 2022年3月期下期

### 業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）



(百万円)		2021年3月期 下期	2022年3月期 下期	前年同期比	
売上高		237,075	245,000	+7,925	(+3.3%)
営業利益		27,537	28,000	+463	(+1.7%)
営業利益率		11.6%	11.4%	▲0.2P	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益		17,415	18,500	+1,085	(+6.2%)
四半期純利益率		7.3%	7.6%	+0.3P	-
<b>主要セグメント別</b>					
サービスIT	売上高	74,076	81,500	+7,424	(+10.0%)
	営業利益	6,122	6,500	+378	(+6.2%)
	営業利益率	8.3%	8.0%	▲0.3P	-
BPO	売上高	18,387	18,500	+113	(+0.6%)
	営業利益	1,795	1,900	+105	(+5.8%)
	営業利益率	9.8%	10.3%	+0.5P	-
金融IT	売上高	57,069	60,000	+2,931	(+5.1%)
	営業利益	8,645	8,800	+155	(+1.8%)
	営業利益率	15.1%	14.7%	▲0.4P	-
産業IT	売上高	102,940	101,000	▲1,940	(▲1.9%)
	営業利益	10,910	11,300	+390	(+3.6%)
	営業利益率	10.6%	11.2%	+0.6P	-

© 2021 TIS Inc.

\*下期計画は通期計画から上期計画を控除したものです。

■ 28

(説明省略)

## 2021年3月期第4四半期 プレスリリース/お知らせ①



発表日付	タイトル
2021年1月4日	TISインテックグループ 2021年 年頭所感
2021年1月4日	TISおよび、連結子会社の人事異動のお知らせ
2021年1月8日	アグレックス、大量の文章情報を知見・知識へ変える「Incubate Block テキストマイニング」の提供を開始
2021年1月8日	TIS、LGBTなど性的マイノリティへの環境整備を推進
2021年1月12日	澁澤アナリティクス、APAC CIO Outlook Magazineが選ぶ「ビッグデータコンサルティング/サービス企業 TOP10」に選出
2021年1月12日	TISの健康サポートアプリ「ASTARI」医療従事者支援キャンペーンを開始
2021年1月13日	インテック、マネーフォワードと協業開始
2021年1月14日	ネオアグシス、プロセスマイニングツールの大手ベンダー独Signavio社とコンサルティングパートナー契約を締結
2021年1月14日	ネクスウェイ、売場写真共有アプリ『売場ノート』のAndroid版アプリを提供開始
2021年1月21日	TIS、RoboticBaseを活用したマルチベンダーロボット管理システムを「あいちロボットショーケース」に出展
2021年1月25日	TISとDataMesh、大林組の工事におけるBIM/CIM、Mixed Reality技術の活用に向けた試行を実施
2021年1月28日	ネオアグシス、「IBM iライフサイクル・サポート」を拡充
2021年1月28日	ネクスウェイ、関西地区国立病院薬剤師会のオンライン研修技術アドバイザーに就任
2021年1月29日	「ムーンショット型研究開発事業 新たな目標検討のためのビジョン公募」目標検討チームに採択
2021年1月29日	ネクスウェイ、ピレージハウス・マネジメントにWEBブラウザ上からFAX送信可能な「NEXLINK」とSMS配信サービス『SMSLINK』を導入
2021年2月1日	TISおよび連結子会社の人事異動、機構改革のお知らせ
2021年2月1日	TISの連結子会社であるアグレックスとネオアグシスを合併
2021年2月1日	TISインテックグループ、CIロゴとブランドメッセージを刷新
2021年2月1日	インテック、マルチ環境リモート監視サービス（EINS/MCS MIRMO）がSSL/TLS暗号化通信接続に対応開始
2021年2月2日	TIS、決済・金融領域での事業創出を強みとするDXカンパニー、インテックと資本・業務提携
2021年2月3日	マイクロメイツ、Microsoft Teamsのオンライン会議機能に特化したクイックリファレンスを販売開始
2021年2月4日	「Spendia」と「transit manager」の連携により交通系ICカードの利用データを取り込み、スマホのみでの経費精算業務をさらに効率化
2021年2月4日	TISインテックグループ、テレビCMに川口春奈さん登場！ 古田新太さん、千葉雄大さんも出演 新テレビCM「マルッと事務処理」篇スタート！
2021年2月5日	TIS、「グッドキャリア企業アワード2020」大賞（厚生労働大臣表彰）を受賞
2021年2月9日	TIS、チャットボット「DialogPlay」をイオン保険サービスに導入
2021年2月10日	2021年3月期 第3四半期報告書
2021年2月10日	TIS、「サブスクリプション変革支援コンサルティングサービス」を提供開始
2021年2月12日	マイクロメイツ、新入社員教育に適したeラーニングを割引価格で利用できる「春のかんたん自己学習キャンペーン2021」を実施

(説明省略)

## 2021年3月期第4四半期 プレスリリース/お知らせ②



発刊日付	タイトル
2021年2月12日	ネクスウェイ、スーパーマーケット売場の欠品を自動で知らせる「欠品アラート」PoC参画企業を募集
2021年2月15日	連結子会社の人事異動のお知らせ
2021年2月18日	インテック、クラウド環境の運用業務を支援する「クラウド運用支援サービス」の提供を開始
2021年2月19日	TIS、タイの流通大手Jay MartのDX推進子会社であるVenturesと資本・業務提携
2021年2月19日	インテック、3年連続で「スポーツエールカンパニー」「東京都スポーツ推進企業」に認定
2021年2月22日	ネクスウェイ、自身が望むビジョンに合わせて働く「場所」を選ぶ、遠方居住勤務制度のトライアルとオフィスリニューアルを実施
2021年2月24日	TIS、上場企業の非財務情報を可視化できる「非財務情報参照・点検サービス」の提供を開始
2021年2月25日	TISの人事異動のお知らせ
2021年2月25日	代表取締役の異動に関するお知らせ
2021年2月25日	「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」の再導入に関するお知らせ
2021年2月25日	第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ
2021年2月25日	ラディックスとネクスウェイ、芸能プロダクションGlanzに電子契約サービス『クラウド契約管理Sign』を導入
2021年2月25日	マイクロメイツ、費用を抑えて全社的な業務改革を実現する業務改善ツール「BPEC（ビーベック）」の販売を開始
2021年2月26日	インテック、衛星データを使用したデータ分析コンペティション「The 4th Tellus Satellite Challenge」で3位入賞
2021年2月26日	TIS、経理や営業事務などバックオフィス業務のデジタル化を加速する「ハイパーオートメーション実現サービス」を提供開始
2021年3月1日	連結子会社の人事異動のお知らせ
2021年3月1日	TIS、人材発掘・育成のための自律型人材育成サービス「MIRROR FOR VISION」の無償トライアルを実施
2021年3月4日	ネクスウェイの『SMSLINK』、「BOXIL SaaS AWARD 2021」の「SaaS連携賞（API賞）」で大賞を受賞
2021年3月8日	ネクスウェイ、HiJo Partnersの個人投資家向けサイト「HiJoJo.com」に『オンライン本人確認サービス』『本人確認BPOサービス』を導入
2021年3月9日	インテックとインターシステムズ、札幌ハートセンターに「医療データ連携プラットフォーム」を導入
2021年3月10日	日本カードネットワークとTISが合併会社「tance株式会社」を設立
2021年3月11日	ネクスウェイ、第35回全日本DM大賞を2部門受賞
2021年3月15日	TIS、健康状態を数値化する「パーソナルスコア®」の提供開始
2021年3月17日	TIS、「ACTIONARISE取引データ管理サービス」をDMM.comグループの本社機能である合同会社DGホールディングスに導入
2021年3月18日	TISインテックグループ「健康経営優良法人2021」に3社認定
2021年3月19日	個人投資家向け会社説明会の資料・動画を掲載しました。
2021年3月19日	凸版印刷とTIS、ローカル5G接続での技術連携を開始
2021年3月22日	エンドユーザーと自社アプリの接点を拡大・強化できるWidget配信プラットフォームサービスの新サービス「チャット機能」がTOYOTA Walletで採用
2021年3月23日	TISと東芝データ、スーパーシティ構想の実現に向け地域ウォレット「会津財布」と「スマートシート®」を連携
2021年3月24日	TISの健康活動サポートアプリ「ASTARI」とライフログテクノロジーのヘルスケアアプリ「カロミル」がキャッシュレス決済による食事の自動記録を実現

© 2021 TIS Inc.

■ 30

(説明省略)

ITで、社会の願い叶えよう。



<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、TIS株式会社から許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、  
改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。

(説明省略)